

「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里中学校】

平成31年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童，中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「英語」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（1）教科に関する調査 【下記（ア）と（イ）を一体的問う】

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（2）生徒に対する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（1）教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

国語	学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数学	学習指導要領第2章第3節数学における、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
英語	学習指導要領に示されている4領域（「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」）に基づいて、その目標や内容を踏まえ言語材料や言語活動からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

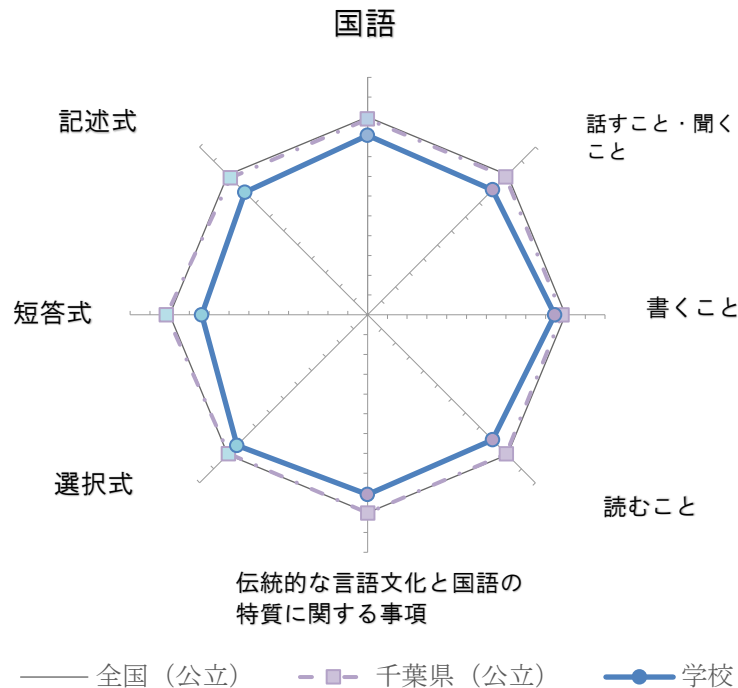
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



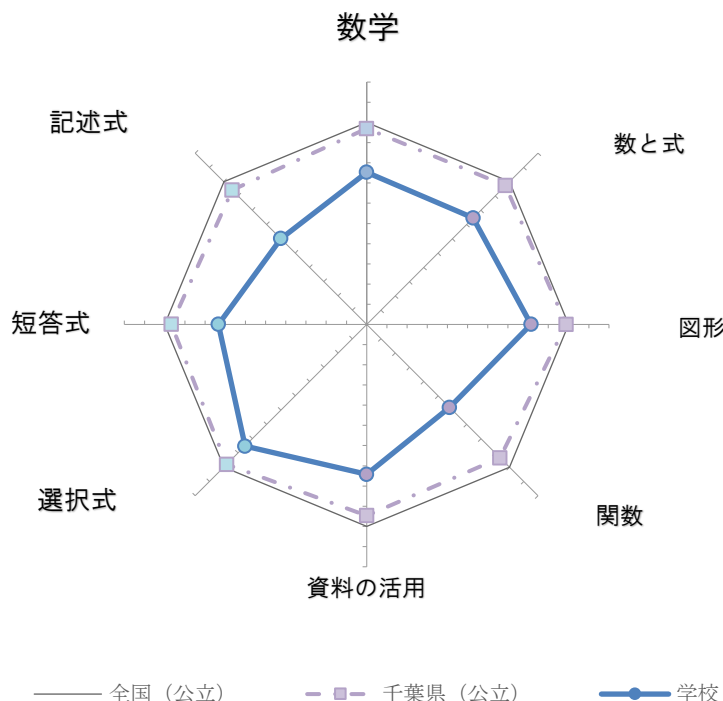
【特徴と現状】

- 今回の全国学力状況調査の3教科の中で、全国平均の正答率に一番近い教科でした。
- 「書くこと」の領域は全国平均にほぼ近い正答率で、特に「論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」という問題では全国平均の正答率を上回りました。
- 「封筒の書き方を理解して書く」という国語の特質に関する事項の学習では、半数以下の生徒が正しい答えを導き出すことはできませんでした。
- 「話すこと」の領域の中で、「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ」という問題は、全国平均の正答率を下回りました。
- 「書くこと」の領域で「伝えたい事柄について根拠を明確にして書く」という問題では全国平均の正答率より低く、無解答率が他の出題より高いという結果が出ました。

【改善方策等】

- 書くための基礎的な知識の習得のために漢字の小テストや意味調べを系統的に実施していきます。
- 文章の内容を正確に捉えるため、構成や展開の流れや形を意識し、文章の要約を取り入れていきます。
- 学校全体で取り組んでいる「学び合い」学習の中で、自分の考えを発表する際に根拠を明確にして発表させたり、書いたりするように指導していきます。
- 授業の終わりに、振り返りとして授業で学習したことを文章でまとめることを継続していきます。

数 学



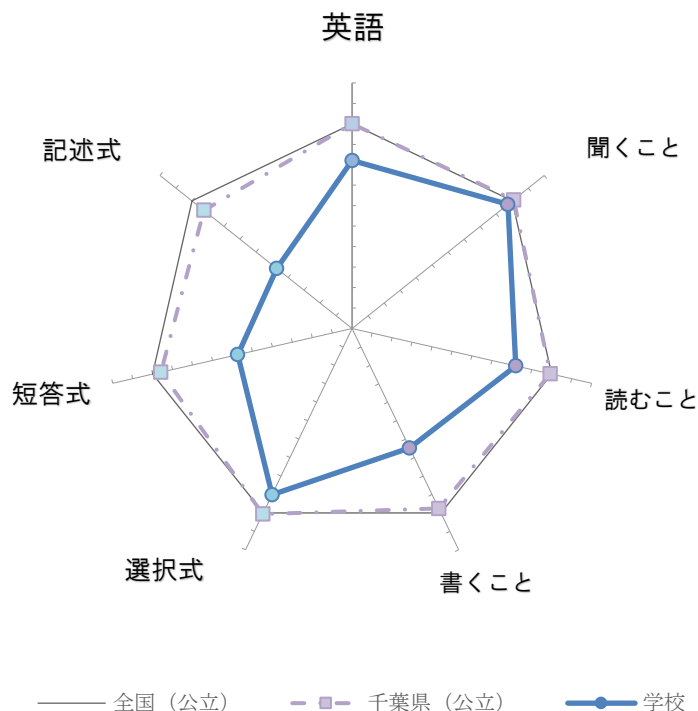
【特徴と現状】

- 全体的に全国平均と比較して正答率が下回っていますが、資料の活用の領域では他の領域の正答率に比べて、全国平均の正答率との差が縮まっている結果が出ました。
- 関数や図形の領域では正答率は低いものの、選択式の問題では、全国平均の正答率の差が縮まっていました。
- 図形分野では、三角形の合同条件や反例の意味を理解している生徒は多いです。
- 数と式の領域の正答率は全国平均よりも大きく下回っていました。
- 数と式や資料の活用の領域など、短答式の問題形式の正答率が全国平均より下回っている結果が見られました。

【改善方策等】

- 基礎・基本を確実に理解できるように基礎的な計算ドリルを繰り返し行います。
- 授業では図やグラフをノートやワークシートに書く習慣をつけて、確実に理解する時間を設けてまいります。
- 授業内や自主学習の中で、気づいたことを記号や言葉を用いてまとめることで、内容の定着を図ってまいります。
- 授業内容の振り返りテストを、授業前に適時行います。

英語



※ 機器の整備状況により「話すこと」の調査は実施しておりません。

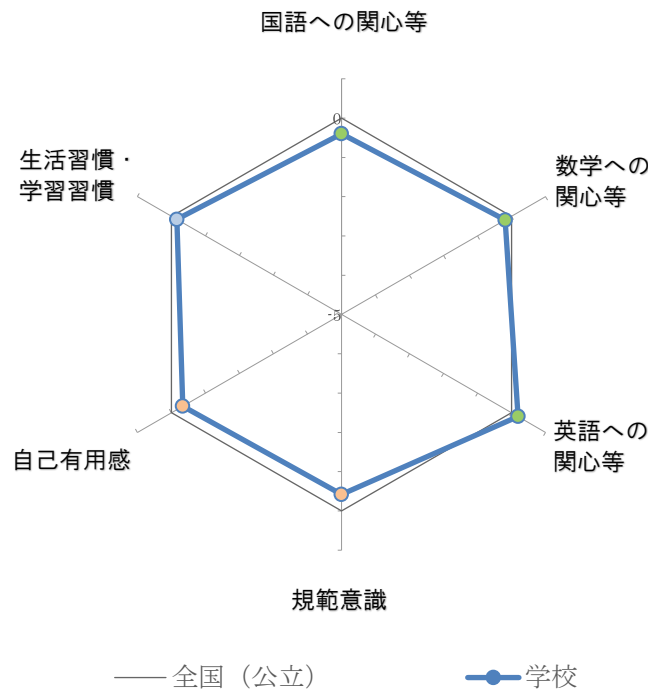
【特徴と現状】

- 全体的に全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「聞くこと」の領域の「語と語の連結による音変化をとらえる」という問題では正答率が高く、ほとんどの生徒が理解できていることがわかりました。
- 「聞くこと」の領域の「日常的な話題について情報を正確に聞き取る」という問題では、県や全国平均の正答率を上回りました。
- 「聞くこと」や「読むこと」の領域の中で無解答率が0%だった問題が8問もあり、正しい解答を導き出そうという意欲が見られました。
- 「読むこと」の領域では、「日常的な話題について簡単な文で書かれたものの内容を正確に理解できる」という問題が2問ありましたが、共に全国平均の正答率より低い結果でした。
- 「書くこと」の領域では「接続詞を適切に用いる」出題や「一般動詞の二人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる」という問題の正答率が全国平均よりも低い結果でした。

【改善方策等】

- 読むことの領域では、授業内でまとまった分を読み解く機会を設けてまいります。
- 端的に英文で表す習慣をつけるためにライティングの機会を確保してまいります。
- 記述式を苦手としている生徒が多いことから、普段から書く活動を充実させ、慣れ親しむことができるようにしてまいります。

(3) 生徒質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 読書が好きと答えた生徒が8割、さらに昼休みや放課後、休日に学校の図書室や地域の図書館に行く生徒は56%と全国平均より高く、読書に関心が高い結果が見られます。
- 英語の授業はよくわかるという生徒が8割程度いて、さらに「英語の授業で学習したことは将来、役に立つ」と感じている生徒が全国平均を上回っています。
- 将来、積極的に英語を使う生活や英語を使う職業に就きたいと思っている生徒が校内に半数近くいました。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と答えた生徒が全国平均に比べて下回っています。
- 「生徒の間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができましたか」という質問では自信をもって「あてはまる」「だいたいあてはまる」と答えた生徒が少ない結果でした。日頃の授業において、一人一人が自分の考えを表現する学習を充実させていく必要があります。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。

生徒個々の対応としては、家庭学習の充実や学習プリントを作成して基礎・基本の繰り返し学習を実施する必要があると感じています。

次期学習指導要領の前文に「社会に開かれた教育課程」が求められています。校内の取組としては、学んだことが将来に生かせるような授業の改善や工夫、地域社会との教育課程の共有のあり方を学校としてさらに研修を深め、「地域や社会をよくするために考える」生徒を増やしていきたいと考えます。一方で、本校では、新しい教育課程の理念のもと「どのように学ぶか」をテーマに「学び合い」に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」につなげようとしています。研修して3年目に入りますが、さらに改善、研究して「自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と実感できる生徒を増やしたいと考えています。